



# 八日市まち協だより

## マンボの秘密と旧八日市鉄道飛行場線跡探訪ウォーキング

10月16日、近江鉄道の「ありがとうフェスタ」近江鉄道全線無料デイ！が、開催されました。八日市地区まちづくり協議会のまち鉄プロジェクトでは、連携イベントの「一日まるごと八日市」で、マンボの秘密と旧八日市鉄道飛行場線跡探訪ウォーキングを午前・午後の2回開催しました。



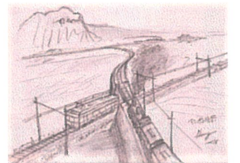
午前の受付を9時からスタートしましたが、9時半過ぎには定員20名を超えてしまいました。参加者は28名で、遠くは名古屋から大津、野洲、沿線だと貴生川や日野、近江八幡、五個荘などから来られていました。なかには鉄道ファンで廃線を巡っておられる方もいて、「熱心な方は遠くからでも来られるのだな」と驚きました。また、年配のご夫婦やお子様連れのご家族、友人同士の参加など性別も年齢も様々でした。



コースは八日市駅をスタートし、清水町の中野大川沿いの遊歩道を歩いて新八日市駅へ。新八日市駅では木製の改札口やベンチ、今は閉じられている待合室などを見学。入口の左側に残る売店の痕跡も確認できました。



新八日市駅見学後、いよいよマンボの跡をたどりました。マンボといっていた築堤は今はなく、跡は道路や住宅になっています。(マンボとは、鉄道や天井川に掘られたトンネルのことを指します。マンボという地域もあるとのことです。)



近江鉄道本線を高架で越えていました



今は国道421号となっている飛行場線跡を東本町交差点へ。この付近に川合寺駅がありました。線路は市道を斜めに横断して、今は自転車道路となっている桜の古木並木へと進みました。桜の時期はきれいですよ。



桜並木の自転車道路は、この先野村町地先まで続いているのですが、今日はここまで。廃線跡を出発するとED314が展示されている近江酒造さん、太子ホールの聖徳市に立ち寄り、本町通りのYokaichi Marketで解散しました。

まち鉄プロジェクトのインスタグラムから当日の動画も見られます。



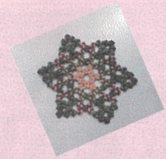
MACHL.TETSU

当日は天気もよく歩いていると汗ばむぐらいでした。また、午後の部の受付で八日市駅に戻ると、ホームへの入場規制で駅前に長蛇の列が出来ていて、電車は超満員で走っていました。こんな光景は見たこともなく印象深い一日でした。



# 八日市地区文化祭

令和4年10月31日~11月6日



力作ぞろい

## ワークショップも人気がありました

癒しの香り  
アロマスプレー作り



あなたの  
パーソナル  
カラーをカラ  
ー診断で  
見つけま  
しょう



昨年好評だ  
ったおもちゃの  
病院、今年も  
臨時開院



おしゃれな  
リースづくり



お花や多肉植  
物でアレンジ  
メント





# 八日市ふるさと絵屏風が

## ALPLAZA 平和堂の外壁に採用されました



1階セントラルコートにも



4階了じ了ホール前にも

夏のライトアップもいいものです

彦根藩の初代藩主、井伊直政は上野国、箕輪城主（後に高崎城主）で12万石を領し、徳川四天王の一人であった。関ヶ原の戦いの武勲により、18万石に加増されて近江国、佐和山城に入封した。数年後、彦根城天守が完成し、嫡男直継が入城した。

しかし直継は病弱を理由に3万石を分知され、上野国安中に移封となり、代わって次男直孝が藩主になった。直孝は幕閣としての勲功によって30万石に加増された。その後、彦根藩は幕末まで17代にわたり一度も転封される事なく、江戸時代13人の大老の内、6人を輩出する譜代最高の地位を維持した。

その領地は犬上、愛知、神崎、蒲生、坂田、浅井、伊香郡に及んだ。旧八日市は神崎・蒲生併せて約1.1万石が彦根領で、残り約1.5万石を伊達、織田、最上等11領主が統治していた。

奈良・平安時代から、仏教の影響で食肉は禁忌されていた。彦根藩は江戸時代に唯一、牛の屠殺が許可された藩で、滋養強壮のため牛肉を

味噌漬けにして、毎年冬に将軍家へ献上したり、返本丸（ヘンポンガン）と言う薬の名目で販売もした。

彦根城は国宝指定の5城（姫路、松本、彦根、犬山、松江）の一つである。過去に破壊の危機が



二度もあった。最初は明治6年の廃城令で、各地で破壊が続く中、明治天皇

が彦根付近を巡幸の際に、城の保存を命じられ破壊を免れた。次は、昭和20年8月15日に彦根は米軍の夜間爆撃の目標であったが、正午に終戦の詔勅が発表され爆撃による破壊を免れた。

✍ 森野吉雄さん

（前号で森野吉雄さんのお名前を間違えてしまいました。謹んでお詫びします。）

あれやこれや

其の二十一

彦根城の巻



# 東近江市女性会の紹介

東近江市女性会の現在会員は八日市町と浜野町の2町と個人会員の43名です。東近江市合併時に地域婦人団体から改名し今日に至ります。

私達の基本の考えは、「出来る時に、出来ることを、出来る人が集まろう」と無理のない様に心がけています。

コロナ禍で地域の事業や井戸端会議が中止になり、地域の繋がりが薄れていく中、活動が続くか心配でした。しかし、日々の忙しさに何か見失っているものがあるのではないか、そんなことを話し合える皆さんと繋がりをなくさないように活動を続けています。



災害義援金を送り続ける目的の廃品回収事業を継続することを再確認しました。地域の皆様にご協力をいただき、2011年から国内の被災地やウクライナまで16回合計64万円を日本赤十字社から送ることが出来ました。継続は力なりとのおもいで今後も続けていきますのでご協力をよろしくお願いいたします。



町の賑わい事業への参加として、本町パサージュにおいて「いかたま焼き」「炊き込みごはん」の販売を笑顔でさせていただいています。「美味しかった」の一声に励まされ出店しています。



コロナ禍で3年間開催されていませんが、コミュニティセンター主催の子どもサマーフェスティバルでは、手作りお菓子などで抹茶をいただく「お作法教室」を開きました。子ども達の神妙な顔を見られて、日本文化に触れてもらったことを嬉しく思います。早くコロナ禍が終息になり再会したいものです。

年末には、寄せ植え教室を開き玄関先を華やかにして、道行く人達に新年を迎えてもらおうと続けています。また、節分には、家族の「家内安全」を願い恵方巻きを作ります。

他にコロナ禍での活動として、町内の会員同士が繋がりを忘れないでほしいと、「ぐるぐる日記」の交換日記を続けています。一言の想いや近況報告など、無理せず思い思いの一言を綴っています。文字の奥にその方の顔が浮かんで嬉しいですね。いつも誰かを思い、社会のお役に立つことが出来るように今後も続けていきたいです。

📄 上阪よう子さん (👤)

## 片言隻句

広報委員になって半年程経ちました。恥ずかしながら最初は厄介な役に当たってしまったなという気持ちで参加しました。しかし「まち協だより」を発行するための編集会議に参加するうちに、委員の皆さんが街のことに細やかに気を配り、八日市をとても大切に思っておられることが伝わってきて、気持ちに少しづつ変わってきました。更に街の課題に多方面から取り組み、繋がりのある豊かで住みやすいふるさとを目指し活動されている方々や様々なプロジェクトについて知ることもできました。

例えば最近あちこちで目にする「ふるさと絵屏風」もプロジェクトの一つですが、絵屏風の頃の思い出話を沢山聞くことができました。その話を次は私の子どもにすると、とても興味を持っていたので、絵屏風作成への想いが少しでも伝われば良いなと思ったりしました。

今では広報委員になってよかったな、と楽しく活動しています。そしてこの広報紙を目にした方がまち協の活動に興味を持ってくださり、参加したり考えたりするきっかけにしてください。嬉しなと思っ



加藤貴子さん (👤)



編集  
発行

八日市地区まちづくり協議会 八日市コミュニティセンター内  
IP電話 050-8034-1141 電話・FAX 23-4120  
E-mail 8comi920@e-omi.ne.jp

